

高校教師の心得



第⑥回 道徳教育



監修
服部 次郎

(はっとり・じろう) 東京女子体育大学・短期大学教授。筑波大学附属坂戸高等学校教諭、同校長、筑波大学教授などを経て、2006年4月から現職。全国高等学校長協会理事など公職を歴任している。

道徳教育とは

昔から、教育は「知育・徳育・体育」という3つの要素がバランス良くなされて、人格の完成という目的が達せられるとされます。

知育とは、国語や数学などの教科を学ぶことで知的な理解力や判断力を養うこと、体育とは、身体の仕組みや運動を学ぶことで健康な身体を養うことです。では、徳育とは何でしょう。頭を良くし、身体を鍛えるだけでは人格の完成には不十分ですね。美しい心、優しい心、くじけない心、人間らしい心を養うことが徳育、すなわち道徳教育なのです。

道徳の“道”は「人間の踏み行うべき道」。

高等学校学習指導要領 (平成21年3月告示)

第1章 総則 第1款 教育課程編成の一般方針 2 (略)

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。
(略)

“徳”は「人間としての良さ」のことです。道徳教育というのは、「人間としての正しい在り方」を養う教育です。道徳教育が欠けては、教育の目的は完成しません。

高校には「道徳の時間」がない

小・中学校では「道徳の時間」があって、学級担任が道徳の授業を行います。ところが、高校には「道徳の時間」がありません。

あるとき、中学校へ教育実習に行った学生が「道徳の授業が大変だった」と言うと、高校へ教育実習に行った学生が「高校は道徳教育がないから楽だよ」などという会話をしていました。それはとんでもない間違いです。高校でも、道徳教育は重要な教育の柱です。そのことは、学習指導要領の第1章「総則」の第1款の2に記述されているので、しっかりと学習しておいてください。

高校に「道徳の時間」がないのは、道徳教育は「学校の教育活動全体を通じて行うこと」という全面主義の徹底を図るためですが、実際のところ、「道徳の時間」がないために、高校教師に道徳教育の意識が薄いことは否めません。

そこで、最近、いくつかの教育委員会では、高校にも「道徳の時間」を必修化する動きがあります。また、新学習指導要領でも、第1章第5款の3(4)に「全教師が協力して道徳教育を展開するため、第1款の2に示す道徳教育の目標を踏まえ、指導の方針や重点を明確にして、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について、その全体計画を作成すること」と定められました。高校においても道徳教育の全体計画を作成することを義務付け、高校教師の道徳教育への意識を高めようとする狙いです。

道徳教育はすべての教師の仕事

すべての高校教師は、専門の教科・科目を教える教師であると同時に、道徳教育の教師でもあります。皆さんは、道徳教育というと「そんな難しそうなこと、私にできるだろうか」と不安になるかもしれません。しかし、それほど難しく考える必要はありません。

道徳教育とは、うそをつかない、決まりを守る、親切にする、感謝するなどのごく当たり前の「人間としての正しい在り方」を生徒たちに教えることなのです。例えば、授業中に私語をする生徒に、「授業に集中して自らを成長させること」「ほかの人の集中を妨げ、迷惑を掛けてはいけないこと」などを教えることが道徳教育の基本です。また、体育祭や文化祭などの学校行事で「級友と協力し合って良い成果を上げること」を指導すること、部活動で「たゆまぬ練習で自らを高めること」「強い相手にも恐れず挑戦すること」などを指導することも道徳教育になります。つまり、すべての教育活動の基本に道徳教育が含まれているのです。それが、学習指導要領でいうところの「学校の教育活動全体を通じて行う」という、全面主義の道徳教育です。

高校には「道徳の時間」はありませんが、高校教師は、自分の教育活動のすべてが道徳教育であることを意識する必要があります。

現代は道徳教育の難しい社会

子どもたちに生命尊重の心が乏しい、規範意識が低下している、人間関係を築く力が不十分、自己決定力が不足している——などの弱点が指摘されるたびに、学校における道徳教育の不足が議論の俎上そじょうに上ります。

確かに現代は、道徳教育の難しい社会であると言えるかもしれません。例えば、戦前であれば「忠君愛国」、封建社会であれば「君臣くんしんの道」などの単純明快な1つの目標で道徳教育ができたでしょう。しかし、現代の民主主義社会は「個人尊重」の社会であり、多様な価値観を認

める社会です。ただ、価値観が多様だからこそ、これだけは誰もが絶対に守らなければならない社会のルールというものがあるはずで、それを教えることが、現代の道徳教育の役割なのです。

これからの道徳教育

海外旅行の経験がある人ならば特に感じることだと思いますが、日本人の道徳心は決して悪くはありません。電車はきちんと並んで乗る、電車内での携帯マナーは守る、ゴミのポイ捨てはしない、喫煙場所を守る、仕事はきちんとする、店員のサービスは良い、街はきれいで治安も良い——これらは日本の道徳教育の成果です。

先に述べたように、民主主義社会は個人を尊重する社会です。しかし、「個人主義」と「利己主義」を混同するような社会にはしてはけません。利己主義者とは、他人のことを顧みず、自分の利益しか考えない人のことをいいます。対して、個人主義者とは、自分自身を大切にするとともに、他人が自己を大切にすることも尊重する人のことです。「個人の自由」は、人類が長い歴史において血を流して獲得した、かけがえない財産です。「自由は、他人を害しないすべてをなし得ることに存する」(フランス人権宣言第4条)というように、個人の自由を守るということは、他人の自由をも守ることなのです。

道徳教育で「人間としての正しい在り方」を教えることを通して、他人の自由を侵して顧みない利己主義者ではなく、他人の自由をも尊重して共に生き、国際平和や環境保全にも責任を持つ「地球市民」を育成していきましょう。

Point!

高校教師の「道徳教育」の心得

- 道徳教育とは「人間としての正しい在り方」を養う教育
- 高校には「道徳の時間」はないが、すべての教師が道徳教育を意識すべき
- 現代は個人の自由が尊重される時代。だからこそ、道徳教育が重要
- 国際社会で責任を果たせる「地球市民」を育てよう

☆次回は特別活動・部活動を取り上げます。